

尼崎の環境—令和2年度版—(概要版)

■表記の説明



…改善傾向/取組が大きく進んだ



…横ばい/取組が進んだ



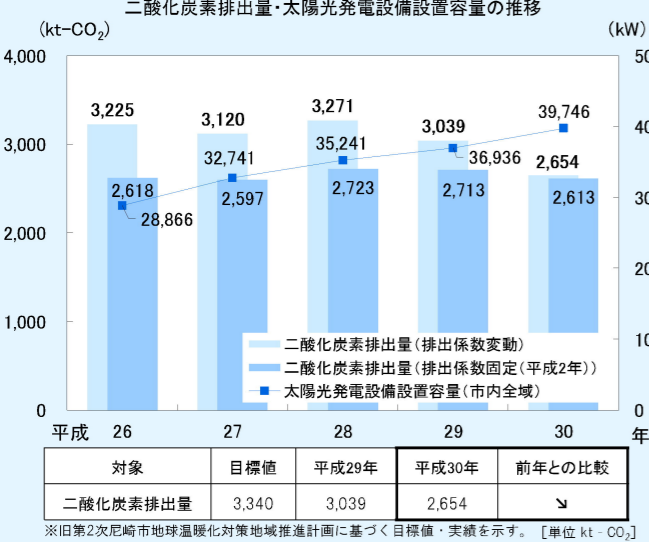
…悪化傾向/取組が進まなかった



…計画目標を達成した

目標1 低炭素社会の形成

■現状



■令和元年度の主な取組・成果

- ・二酸化炭素排出量は引き続き減少傾向にあり、平成30年度の推計値(速報値)は旧計画の目標を達成しました。なお、平成30年度の市の取組による削減量は16,855 t-CO₂(再エネ関係: 12,418 t-CO₂、省エネ関係: 4,437 t-CO₂)でした。
- ・平成31年3月に策定した「尼崎市地球温暖化対策推進計画」の内容を周知するとともに、COOL CHOICEを推進するためのシンポジウムを開催しました。
- ・環境に優しい住宅の普及や固定価格買取制度の買取期間終了後の太陽光発電によって発電される電気を有効に活用するため、ZEHや尼崎版スマートハウス(エネルギーを「創り」、「蓄え」、「整える(管理・調整)」できる住宅)などに対する補助制度を設けました。
- ・市内の一部で試験的に実施していた地域通貨を活用したCOOL CHOICEの推進に関する取組を市域全体に広げました。

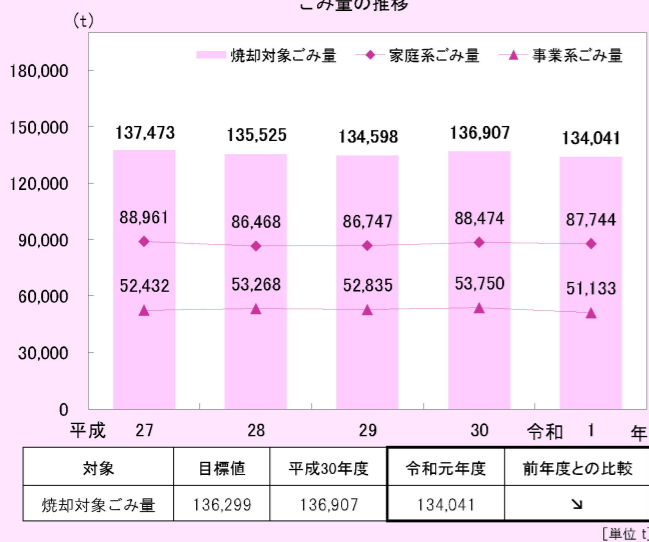
■評価と取組の方向性

- ・戸建て住宅だけでなく、集合住宅を対象とした省エネ対策についても取り組めます。
- ・家庭部門への対策に加え、産業・業務部門で消費されているエネルギーの低炭素化・脱炭素化に向けた取組を検討します。



目標2 循環型社会の形成

■現状



■令和元年度の主な取組・成果

- ・平成30年度は台風起因する災害ごみの発生により一時的に焼却対象ごみ量が増加しましたが、令和元年度は減少に転じ、計画目標を達成しました。
- ・尼崎市一般廃棄物処理基本計画の改定に向けて、市民・事業者の意識調査を行うとともに、現行計画の課題の抽出を行い、今後の取組の方向性について検討しました。
- ・ごみ減量・リサイクルをするためのリーダー的な役割を果たしているさわやか指導員制度について、市民参加の裾野を広げるため選任方法などを見直しました。

■評価と取組の方向性

- ・焼却対象ごみ量は、市民・事業者の様々な取組や人口の減少などにより減少傾向にあることから、現状の取組を基本としながら、更なる改善を進めていきます。
- ・令和2年度における尼崎市一般廃棄物処理基本計画の改定に伴い、廃棄物を取り巻く国内外の動向を踏まえつつ、食品ロス削減やプラスチックごみの減量化・資源化など本市における課題への対応について検討を行います。



目標4 多様な生き物の生息(生育)環境の保全

■現状

生物の生息・生息環境と市民の興味・関心の状況

対象	平成30年度	令和元年度	前年度との比較	
緑の面積	450.4 ha	450.7 ha	↗	
市有施設におけるブラックリスト種(兵庫県)の使用	0件	0件	→	
民有施設におけるブラックリスト種(兵庫県)の使用	0件	0件	→	
環境基準の達成状況	BOD	100%	100%	→
	DO	100%	100%	→
	Zn	100%	100%	→
	NP	100%	100%	→
LAS	100%	100%	→	
生き物に関する講座・イベントの実施回数	49回	42回	↓	
身近な自然・生き物を大切にしている市民の割合	64.4%	62.6%	↓	
市民農園の面積	19,819 m ²	21,270 m ²	↗	

■令和元年度の主な取組・成果

- ・身近な自然・生き物を大切にしている市民の割合が微減となりましたが、他の項目は良好な状況にあります。
- ・あまがさき環境オープンカレッジと協力して、昨年度に引き続き、兵庫県版レッドデータブックに掲載されているヒメボタルの観賞会や幼虫調査を行いました。また、生息場所の環境改善を目的として、竹林の間伐材を用いて、竹垣を設置しました。
- ・猪名川自然林の本来の姿を保全していくための活動として、市民団体を協力しながら自然林の再生実験を始めました。
- ・尼崎市産の野菜を「あまやさい」としてブランド化し、都市農業について多くの市民に知ってもらうことで、市内農業の振興につながる取組を始めました。

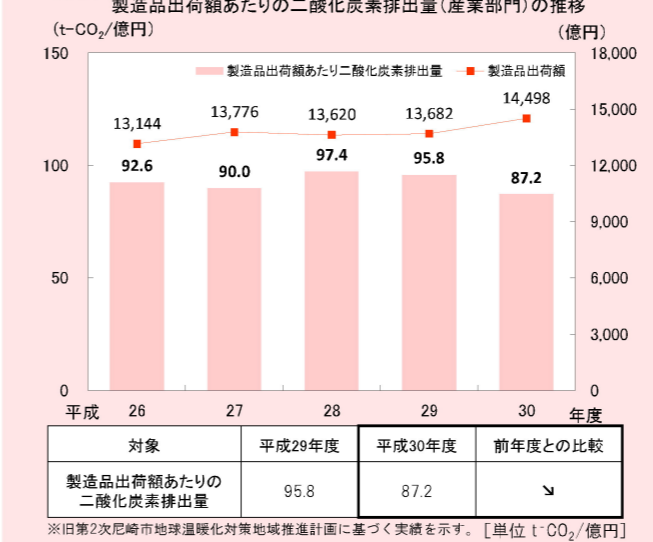
■評価と取組の方向性

- ・ヒメボタルの幼虫調査については、継続的な調査を行うことで、生息場所・条件がどのようなものか、どういった対策が生息環境の保全につながるのかといった基礎的な情報の蓄積につなげるとともに、設置した竹垣の有効性について確認していきます。



目標5 環境と経済の共生

■現状



■令和元年度の主な取組・成果

- ・市内環境の向上と地域経済の活性化を目指す尼崎版ニューディールの結果として、4億400万円の経済波及効果がありました。
- ・産業部門における二酸化炭素排出量が減少したこと、製造品出荷額が増加したことから製造品出荷額あたりの二酸化炭素排出量は平成2年度以降で最も少なくなりました。
- ・産業部門における余剰エネルギーの利活用可能性調査を実施し、余剰エネルギーの有無や利活用の可能性について検討しました。
- ・あまがさき環境オープンカレッジで、「あまがさきお仕事たんけん隊」として環境に取り組む市内の工場見学などを実施しました。

■評価と取組の方向性

- ・製造品出荷額あたりの二酸化炭素排出量は長期的には減少傾向にあることから、現状の取組を基本としながら、取組を進めていきます。
- ・指標の更なる低減を目指すため、市内事業者において消費されるエネルギーの低炭素化・脱炭素化に資する取組について検討を行います。



目標3 安全で快適な生活環境の保全

■現状

環境基準の達成状況

対象	目標値	平成30年度	令和元年度	前年度との比較
大気	100	95.4	95.4	→
水質(河川・海域)	100	97.9	97.6	↓
水質(地下水)	100	99.5	99.5	→
騒音(自動車)	100	98.6	98.3	↓
騒音(航空機)	100	100	100	→
騒音(新幹線)	100	95.8	95.8	→
ダイオキシン	100	100	100	→

[単位 %]

■令和元年度の主な取組・成果

- ・過去に改善命令を出した事業者を含め、継続的に立入調査などにより監査・指導をしており、行政処分となる違反はありませんでした。
- ・飛散性アスベストの除去作業において、除去作業中の検査だけでなく、作業完了時の検査も行うなどアスベストの飛散防止策を強化しました。
- ・高濃度PCB廃棄物の期限内処理に向け、パンフレットを関係団体に配布するとともに、市報において広報を行いました。また、PCB廃棄物の掘り起こし調査の結果を精査し、必要に応じて電話による追跡調査や現地調査を行いました。

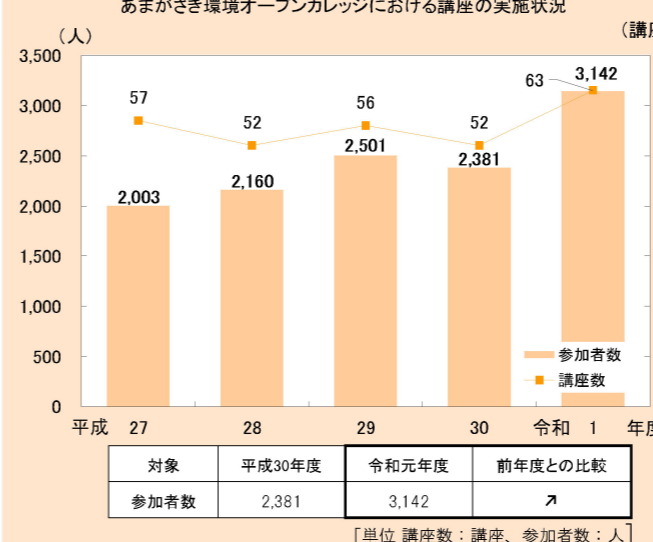
■評価と取組の方向性

- ・環境基準については概ね達成できている状況が続いているため、現状の取組を基本としながら更なる改善を進めていきます。
- ・建築物の解体工事などによるアスベストの飛散防止を強化するために大気汚染防止法の改正が行われるため、事業者へ周知を図ります。



目標6 環境意識の向上・行動の輪の拡大

■現状



■令和元年度の主な取組・成果

- ・あまがさき環境オープンカレッジでは子どもから大人まで幅広い層を対象とした環境に関する講座やイベントが行われており、平成30年度に比べ新たに24団体と連携することができました。
- ・小学校向けの環境教育については、環境部局の各所属が個別に学校に働きかけて実施しており、統一性や効率性に欠けるアプローチとなっていたため、学校のニーズを踏まえながら環境教育プログラムの統合に向けた検討・調査を行いました。

■評価と取組の方向性

- ・あまがさき環境オープンカレッジにおける講座・イベント数については、一定数が確保されており、引き続き、尼崎市環境基本計画の施策に沿った環境啓発・学習を進めていきます。
- ・小学校向けの環境教育については、本市における地球温暖化や資源循環、公害に関する課題・取組などを総合的に学ぶことができる環境教育プログラムやテキストの作成を行います。

